
アルス国際製靴学校研修体験記

(平成14年 9月21日～12月25日)

パイロットシューズ株式会社 藤原 憲一

ARS国際製靴学校での授業は、イタリア語と英語の2クラスで行われます。1クラス20名程で、私達日本人はイタリア語クラスに入ることになります。この学校で50数年型紙を教えている、ルナティー先生のクラスです。授業の進め方は、先生が先ず教卓で説明しながら実技を見せてくれます。イタリア語で説明の後、英語でも説明してくれます。それを各自が実践するというのが基本的な授業のスタイルです。分からない個所があった時は、質問をすれば何度でも説明して頂けます。両クラスともルナティー先生が編み出した型紙理論を習うので、先生本人からご教授頂けるイタリア語クラスのほうが有益だと感じました。また、イタリア語クラスの約半分はイタリア人生徒なので、イタリアの文化を堪能することができました。

文化や国民性の違いというのは、やはりその国の人たちと喋って友達になることが一番よく分かると実感しました。イタリア人は仲良くなると、とても友好的で、非常に明るく、人情深いところがあります。スピリットは、日本人に近いものを持っていると思いました。良いところも悪いところもありますが、それらを知ることも研修の一環であると思います。



○現地での生活について

私達が3ヶ月間滞在したレジデンスは、ミラノの中心地からトラム（路面電車）で15～20分程の所にあります。MICAMなどが開催されるFIERA MILANOという展示会場のすぐ近くです。周りにはスーパーマーケットや食料品店、文房具店、銀行（ATM）、レストラン、BARなど現地の生活に必要なお店はほとんどあります。15分程歩けば中華街があり、美味しい中華料理店や、アジアマーケットでは日本食材を買うことも出来ます。

学校とレジデンスは同一建物内にあり、学校は2階にあります。玄関の受付には24時間管理人が居て、電話の取次ぎやタクシーの配達手配などをしてくれます。また、部屋内の備品の故障などにも対応してくれます。学生の大半はこのレジデンスに住んでおり、学校生活以外にも様々な国際交流が出来ました。このレジデンスには一般の

方も住んでいて、日本で言うところのマンションに当たります。

私は東京都から一緒に来た、(株)ニューロンドンの高橋さんと二人部屋でした。部屋のタイプは大きく分けて2種類あって、一人部屋はキッチンが付いていません。私達が滞在した二人部屋にはキッチンが付いていました。部屋自体も広く、ベット2つ、トイレ、バス、キッチン、冷蔵庫、鍋や食器類、テレビ、ソファなど生活に必要な物は全て揃っていました。ベッドメイキング・掃除・タオル交換などのハウスクリーニングは、土日以外は毎日してもらえます。

気候に関しては、とにかく雨の日が多い。11月はほとんど雨だった印象です。気温は東京よりも寒いと思います。3ヶ月滞在すると、季節の変わり目を体験でき、その時期その時期で街の色も変わってくるのが分かります。

ミラノの街は、想像していたよりも小さく、3ヶ月という期間があれば十分に慣れ親しむことができました。街並は、歴史的建造物とモダン建築の融合が見事に表現されていて、最初の一週間くらいは見るもの全てに驚いているような調子でした。

○研修内容

◇授業スケジュール

月曜～木曜日：午前9時～正午、
午後1時30分～5時

金曜日：午前9時～正午、
午後1時30分～4時

土・日・祝日：休講

◇型紙

外羽根、内羽根、パンプス、サンダル、ブーツ（ショート・ロング等）、モカシン、アシンメトリー（左右非対称デザイン）、サボ、プラット、スニーカー

上記のデザインとその応用の型紙の技術

指導が行われます。一日2～4点くらいのデザインが課題として出されたので、全部で100点以上の型紙を切ったことになると思います。月曜日にはMonday Exerciseというテスト形式の提出課題があり、それとは別に週に1～2回Busta（日本語で封筒の意）と呼ばれる提出課題もありました。

Monday Exerciseとは、毎週月曜日に2～3点のデザインが配布され、その型紙とプルオーバー（紙製）までを作成し、封筒に入れて提出します。すべてのデザインが完了した時点で、先生に見せに行き、所要時間がチェックされます。

Bustaとは、1デザインが配布され、型紙・裏型・プルオーバー・裁ち型（表裏両方）・デザイン画を封筒に入れて提出します。週に1～2回のペースで行われ、全部で20デザインくらい提出しました。

その他にはSpecial Workというものがあり、一枚の大きな画用紙に型紙・デザイン画・プルオーバーを貼ったものを、教室の後ろの壁に貼って展示していました。これは全部で3回行われました。クラス全員のもが展示されるため、皆それぞれの個性が出ていて見ているだけで勉強になります。

これら全ての提出作品が卒業の判断基準の一つとなるのが、卒業試験の面接時に分かりました。紳士・婦人・子供用と、毎日ランダムに出される課題をこなすことで、型紙を切るという作業にも慣れ、スピードや精度も増してくることがやりがいになりました。

◇理論

月曜日以外の週2～3日は、午前中1～2時間程度の理論講義があります。内容は、
・ラストプロポーション：木型（靴型）の各部の名称、測定方法、基本数値の算出方法など

・インターナショナルサイズ：French・

English・American・CM（センチメートル）の表示方法と換算

- ・皮革：革の種類、用途、なめし、甲革の裁断方法、測定方法とその計算など
- ・製靴方法：グッドイヤー、ブレイク、ミスタ、インキオーダー、イデアル（ステッチダウン）、プラット、セメント、インジェクション（ブルカニッツァータ）などの種類別の構造と特徴



○卒業試験

卒業試験は筆記・実技・面接の3つに分けて行われます。

- ・筆記：上記の◇理論で勉強した内容を指定された紙にまとめて提出します。これは授業中に行うので、試験というよりは提出課題といった印象です。
- ・実技：研修最終日前日に行われます。予め紳士・婦人のどちらを選択し、2クラス合同でくじ引きをしてデザインを決めます。それを一日かけて型紙（表裏両方）・プルオーバー（紙）・デザイン画を作成し、封筒に入れて提出します。その他に、授業中に自分でデザイン画を書いて型紙・裁ち型を作成し、甲革を選んで手断ちしたものを提出してルナティー先生の奥様に製甲を作って頂き、それをルナティー先生が木型に釣り込んで靴

（底材は無し）にする、という課題もあります。これも最低1点は必須です。

- ・面接：研修最終日に行われます。予め配布される予想問題の中から、一つの質問が口答で行われます。その他には、上記の◇型紙で記載したMonday Exercise、Busta、Special Workの他に、基本型4点（紳士外羽根・内羽根・婦人パンプス・Tストラップ）の提出課題の評価などです。

○研修を終えて

今回の研修を振り返ると、到着当初は慣れないせいもあり、時間の流れが長く感じられたこともありましたが、今思い返すと「あっ」という間の3ヶ月間でした。

靴の本場であるイタリアの製靴学校で研修を受けられたことは、今後の仕事において、また人生において大変貴重な時間であり、とても有意義であったと思います。特に同じ業界で働く世界中の人たちとの触れ合いは、なにものにも変え難い機会でした。

この研修で培った経験を活かし、更に勉強を重ね、会社・業界に貢献していきたいと思っています。

最後になりますが、様々な形で私達をサポートして下さった関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

アルス国際製靴学校体験記

(平成14年 9月21日～12月25日)

株式会社ニューロンドン 高橋 泰

私は昨年(平成14年)の9月21日(土)～12月25日(水)までの約3ヶ月間、東京都からの派遣としてイタリアのミラノにあるアルス国際製靴学校に留学するという、ラッキーな経験をさせてもらうことができました。

今後の参考として、体験談を書きます。授業内容等は毎年何名かの人達が行かれ、すでに紹介されていることと思いますので詳しくはふれませんが、一つだけ感心したことを述べたいと思います。それは、「ルナティーシステム」です。「ルナティーシステム」と呼ばれるパターンの取り方は、本当に経験がものをいうやり方だと思います。

木型に線を直接書き込まず、原形の平面上に線に乗せていくというやり方で、はたして立体の靴になった時に自分の思っていた線が出せるのか。ルナティー先生自身は出せているのですが、その点がとてもとまどいました。

すべてのデザインの取り方を理論付けていくことはすごいことだと思うし、今年80歳という高齢にもかかわらず、あのペンさばきとカッターさばきは、まさに名人芸でした。

次に、現地での私の思ったこと、感じたこと等を書きたいと思います。

私がイタリアに行くまで考えていたイタリア人のイメージは、陽気で人なつこくて、サッカーとチーズをこよなく愛し、パスタさえあれば何もいらぬという感じを

持っていました。

実際に接してみると、まさにその通りで日本人の精神年齢よりもかなり若く、また文化も大きく異なる部分があると感じました。例えば、お昼休みの時間を見ても、1時間半～2時間という長さが当たり前です。それでも先生が遅れて来るといふ、日本では考えられない一面も、イタリアではごく普通で特別驚くことではないようです。電車等の乗り物にしても、30分～1時間遅れることもあるし、駅のシステムも、日本では改札口がありそこを通過しなくては行けません、イタリアは改札口というものが存在しませんでした。

トラム(街中を走る電車)に関して言えば、たまに検査員が乗車券のチェックに来るといふことですが、私は3ヶ月の間に検査員に出くわしたことは一度もありませんでした。かなりの人達が無賃乗車をしているように感じたのは私だけでしょうか。

また、土曜日はそうでもないのですが、日曜日はほとんどの店が営業をしていないので、ある人に理由を聞いたところ、「みんながみんな日曜日は休みたいと思っている訳じゃ無いんですよ。中には働きたいと思ってる人だってたくさんいます。でも、国の法律で店を開けられないんですよ」といふことでした。

その理由はどうやら、そうした規制を作らないと、大資本が勝ってしまい、町の小

さな店はどんどん潰れて無くなってしまいうということ、何年か前に国民投票をやった決まったそうです。「この国の人達は、便利さよりも不便さを選んで町の商店を守ったんですよ」とも言っていました。

物価に関して言えば、洋服等の値段は日本とあまり変わりませんが、革靴に関しては、ぐっと安さを感じました。もちろん有名ブランドは別ですが、普通の靴屋で売っている革靴はやっぱり安い。スニーカー等はさほど日本と変わらないと思います。

街のスーパー等で売られている食材は、私自身日本で食材等の買い物をあまりしないため、正確に比較することはできませんが、思ったより安くは感じませんでした。リラがユーロに変わって、かなり便乗値上げをしているとのこと。

マクドナルドやバーガーキング等の日本でも馴染み深いファーストフードも、日本と同じ値段か、むしろ高めのように感じました。残念ながら吉野屋がなく、何度も食べたいと思いました。あればきっと流行ると思うのですが。

お酒に関しては、ワインやビールは本当に安かったです。店の中で一番安いワインが、1リットル当り日本円にして100円程度で、ビールも大びんで100円位という安さです。日本酒や焼酎は、中国人街に行かなければ売っていないし、また、高いのであまり口にするにはできませんでした。

タバコは逆に日本よりも高く、1箱日本円にして400円位で売っていました。そのために、街では「タバコ頂戴」と言う人が非常に多く、1本あげると調子に乗って「もう1本頂戴」と言う人もいたので「ノー」とはっきり断るのが無難だと思います。

イタリア人のクラスメイトの一人も、あ

る日私に「タバコ頂戴」と言うてきました。その時は丁度持っていなかったので「ノー」と言ったら、イタリア語で何か言ったのですが、私には理解できなかったのも、当然のように笑顔で対応しました。後日、イタリア在住5年でイタリア語が堪能な日本人のクラスメイトに聞いたところ、「あの時、買いに行けみたいと言ったよ。もう本当にムカツク」と自分のことのように怒っていました。それを聞いた私も当然怒りが込み上げて、今度言うてきたら一戦交じえるのも覚悟の上で、クラスメイトにイタリア語で「自分で買いに行け！」と言う言葉を教えてもらい、それだけを覚えました。

数日後、その覚えた言葉を使う瞬間がきました。「タバコ頂戴」と言うてきたので、すかさず「自分で買いに行け！」と言ったところ、一触即発の雰囲気かと思いきや、少し驚いた表情で淋しそうに戻って行きました。ちょっと可哀想な気もしましたが、その後は一切「タバコ頂戴」とは言わなくなり、逆に妙に愛想がよくなりました。やはり自分の気持ちは主張しないとイタリア人はどんどん調子に乗ってくるらしいので、いい勉強になりました。

一方、お隣り韓国人グループのクラスメイトは、とても真面目で授業態度も良く、優等生といった感じでした。

私の韓国人の食生活に対するイメージは、焼肉とキムチをこよなく愛し、チャンジャさえあれば何もいらぬという感じでした。

実際に接してみると、まさにその通りで、イタリア料理を食べている姿は全くといっていいほど見ませんでした。常に食卓には韓国の家庭料理が並べられていて、私も何度も御馳走になりましたが、これがおいしい！私は韓国料理が好きになりました。

その中の一人の男子生徒は、非常に楽し

くお酒好きな好青年でした。すぐに打ち解けたのは言うまでもありません。お互いのコミュニケーション手段は、片言の英語（知ってる単語を並べた位のレベル）と、ジェスチャー。後はペンとメモ用紙を持って、イラストでの説明です。一生懸命お互いを理解しようとする気持ちが、通じ合えたのだと思います。この青年との出会いを今後も大切にしてお互い国は違いますが、たまにはメールでのやりとりをしていきたいと思っています。

先日、韓国で地下鉄放火事件という非常に残念な事件がありました。その時もメールを送ったところ、他のクラスメイトもみんな無事という連絡をもらい安心しました。

最後に、忘れてはいけない日本人グルー

プのことで、とてもいいメンバーに恵まれたことに感謝しています。

みんなとても真面目に授業を受けていました。授業以外の私生活でも、それぞれが充実した生活を送ったようです。3ヶ月間の海外での留学生活を楽しく過ごせたのも、このメンバーのおかげだと思います。

日本に帰りそれぞれの生活、仕事に戻りましたが、イタリアでの貴重な体験を共有した者同士、これからも仕事抜きの良い付き合いが出来るように私自身、頑張っていくと思っています。

今回のアルス国際製靴学校に参加するにあたり、御力になって頂いた全ての方に対して、深くお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

— * — *

施設公開のお知らせ

東京都立皮革技術センター台東支所
科学技術週間にちなんで、下記のとおり施設を公開します。

皆様のご来場をお待ちしております。

公開日時 平成15年4月17日(木)

10:00~16:00

公開内容 ・足形測定



・研究室の案内

11:00・14:00の2回

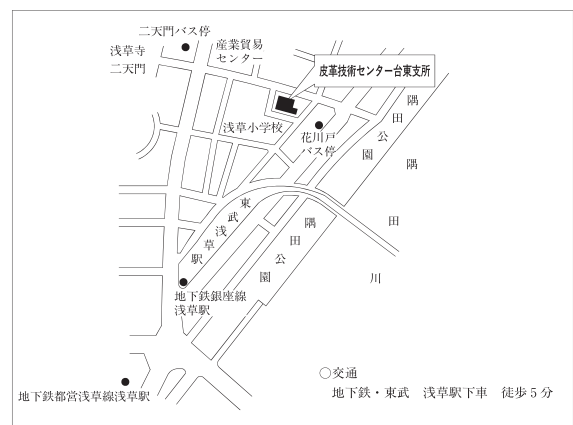
(各回1時間程度)

会 場

東京都立皮革技術センター台東支所

台東区花川戸1-14-16

案 内 図



問合せ先

電話03-3843-5912